

地域福祉の充実をめざして、
支える心のネットワーク！



Fukushi
CHIBA



赤い羽根共同募金

福祉 ちば

No. 197

2023.7 July



我孫子市
社会福祉協議会

子育て世帯を「福祉とリユース」の取り組みで応援！
不要になった学生服を必要な方に渡す
「制服バンク」事業



エールちば

地域とつながり、地域で学ぶ！地域に学ぶ！

敬愛大学の学生ボランティア活動

県社協ニュース

●新会長に花島恭一氏が就任



**子育て世帯を「福祉とリユース」の取り組みで応援！
不要になった学生服を必要な方に渡す「制服バンク」事業**

景気や物価高騰の影響を受け、子どもの制服を買い揃えることに負担を感じている世帯が増えてきました。そんななか、我孫子市社会福祉協議会(以下、我孫子市社協)は制服バンク事業をスタートしました。市民のみなさんから不要になった学生服などの寄付を募り、必要な方に譲渡する事業です。立ち上げの経緯や事業への思い、成果などを伺いました。

**事業を進めるうえでの
ポイントは学校との協力関係**

我孫子市社協が制服バンク事業を立ち上げたきっかけは、「経済的な理由で制服が購入できなくて困っている人がいる」という声が届くようになったことでした。子ども支援をもっと手厚くしたいと考えていた市社協はさっそく準備を進め、2022年7月に事業を開始します。

まずは広く市民のみなさんに制服バンク事業について知っていただき、寄付を呼び掛けるために、我孫子市社協ホームページや市の広報紙への掲載とともに、地区社会福祉協議会(以下、地区社協)や市内の学校にチラシの配布をお願いしました。

この事業を進めるうえでポイントになるのは、地区社協など関係者の協力は

もちろんのこと、学校の協力を得ることだと、我孫子市社協の事務局長 横田光夫さんは考えました。そこで小中学校の校長会に出向いて事業の説明を行ったところ、



我孫子市社協事務局長
横田 光夫さん

これまで福祉教育の実践に尽力してきたことから、市内の教育関係者のみなさんの社協に対する理解も深く、各校からの協力をすぐにご得ることができました。

**名札を取り外す作業を
ボランティアが担当**

寄付対象品は市内の中学校と高校が指定する制服、体操服、ジャージ等と、小学校が指定する体操服です。中学校が指定するカバンやバッグ、履物も対象

品に含まれます。寄付の大半は中学生向けのリユース品で占められているそうです。

昨年度は153名の方から1,283点のリユース品が寄付されました。予想よりも多く集まったといいます。寄付対象品はほつれや破れがない、状態のよい品に限っていますが、個人名が刺繍してあったり、名札が縫いつけてあるため、ボランティアを募ってきれいに取り外す作業をお願いしています。現在10名の方が登録して手分けしながら作業にあたっています。



寄付された数々の品

**必要な人に確実に渡すため
情報提供や譲渡の仕方を模索**

寄付された品を必要な方に渡すために譲渡会を企画し、昨年は公民館などを借りて3回開催しました。制服を一式購入すると高額となることもあるため、「受け取った方の多くは「ホッとしました。大切に使います」と笑顔を見せられます」と、我孫子市社協事務局長補佐の武者小路智恵子さん。

コロナ禍であったことや、プライバシーへの配慮から、譲渡会は予約制としていました。しかし昨年度の譲渡数が317点と、寄付数に比べて少なかったことから、今年度は予約制を廃止して、誰もが気軽に来場できるように変更しました。「寄付したい人と受けたい人の橋渡しをすることが私たちの役目ですので、情報提供や譲渡の方法を考えながら進めたいと思います」と、我孫子市社協の加瀬史仁さんは話します。



我孫子市社協
加瀬 史仁さん

**街中を走る「制服バンク号」
で活動をPR**

制服などの運搬に使っている「制服バンク号」は、職員の方も一部のイラストを描いてラッピングカーに仕立てたも



街中でひときわ目立つ「制服バンク号」



〈お問い合わせ先〉 我孫子市社会福祉協議会 TEL:04-7184-1539 HP:<http://www.abiko-shakyo.com>
本事業への寄付金も受け付けています

千葉県地域ぐるみ福祉振興基金による助成事業

県社協が行っている事業で、社会福祉活動を行う民間団体へ助成を行うものです。

各種活動の実施費として上限10万円を助成する「市民福祉活動団体助成事業」や、新規の事業立ち上げに上限200万円、事業拡充に上限100万円を助成する「ひまわり助成事業」などがあります(金額は令和5年度のものです)。

今回の募集は令和6年4月頃を予定しています。募集開始時には県社協のホームページに案内を掲載しますので、詳細が知りたい方はぜひご確認ください。

県社協ホームページ:
<http://www.chibakenshakyo.com>



我孫子市社協事務局長補佐
武者小路 智恵子さん



**制服バンク事業の
お直しボランティア
のみなさん**

活動のきっかけはもともと「別のボランティアグループで活動をしていて、コロナ禍で活動できない時期が続いていた。そんな時に我孫子市社協に声をかけてもらった」「趣味の洋裁を活かして社会に役立てるならと思った」「友達に誘ってもらった」などさまざまです。いざ取り組んでみると、しっかりと取り付けられた名札や刺繍を外す作業は大変なことだったようですが、「私たちの活動によって、子どもたちが気持ちよく制服を使えるようになるのはうれしいです」「市内の子どもたちの役にたつ活動に参加できて幸せです」「まだまだ新しい制服を捨ててしまうのはもったいない。とてもよい活動だと思います」と、やりがいを感じて取り組んでいるとのことでした。

れば多角的な支援につなげていきたいと横田さんは話します。寄付を希望する方とのやりとりのなかで、さらなる困りごとや希望があれば他の制度や市社協の別の事業(たすけあいバンクなど)につなげたりして、しっかり支えることを目指して取り組んでいます。

物品だけでなく「使わない制服を誰かのために役立てたい」という寄付者のあたたかい思いも必要としている人に届け、子どもたちが明るい気持ちで学習できる環境づくりにも役立つ「制服バンク事業」が今後、広がっていくことが期待されます。

敬愛大学の 学生ボランティア活動

地域とつながり、地域で学ぶ！地域に学ぶ！

千葉県稲毛区にある敬愛大学は2017(平成29)年、「地域連携センター」を設立し、地域連携活動や生涯学習活動とともに、ボランティア活動を推進してきました。学生たちは地域とのつながりを活かしながら、教育支援や地域活性化支援、パラスポーツ支援など幅広い分野のボランティア活動に活発に取り組んでいます。



“地域の伴走者”を目指し、地域とのつながりを重視

敬愛大学は、平成29年に大学と地域をつなぐ窓口として「地域連携センター」を設立しました。ボランティア情報を収集・整理して学生につなげ、安心して活動に取り組めるように継続的に支援するボランティアセンターの役割も担っています。

「学生にボランティア活動を紹介する前に、どのような団体で、どのような活動なのか、団体の方にお越しいただいてきちんと話を聞くことにしています。『ボランティア活動をやった良かった』と学生に思ってもらえることが大事なので、自信を持って紹介できる活動だけを紹介するように心がけています」と、センター長の藤森孝幸さんは話します。



敬愛大学地域連携センター長 藤森 孝幸さん

地域で学び、地域を盛り上げる「地域活性化ボランティア」

大学として特に力を入れているのは、「地域活性化ボランティア」です。自治体や町内自治会、商店街などの行事やイベントに準備段階から参加し、地域住民と協力しながら活動しています。とくに地元、稲毛区の活性化のために尽力してきました。

地域との関係づくりについて、藤森センター長は、「民生委員の研修会に大学の教室をお貸したことをきっかけに、地域の様々な活動に呼んでもらえるようになりました。逆に、こちらから地元のお祭りの実行委員会に飛び込んだこともあります。お互い踏み込んだことで良い関係を築くことができ、学生たちのこともとても可愛がってもらっています」と話していました。



その他、「教育の敬愛」と言われる強みを活かした「教育支援ボランティア」、東日本大震災の被災地に学ぶ「災害復興支援ボランティア」や、「大学間連携ボランティア」など、学生は、地域連携センターの支援を受けて、様々な分野のボランティア活動に取り組んでいます。

子どもの学びのために学生が企画する本格的なワークショップ



教育ボランティアIris代表 藤本 治美さん (教育学部3年)

部活動の1つである、教育ボランティア「Iris(アイリス)」は、子どもの学ぶ力を育成し、遊び場を提供するとともに、地域活性化を目指して学生自身の手で設立されました。市内美浜区にあるショッピングセンターの空き店舗を無料で借り受け、子ども向けワークショップを月1回開催しています。

注目すべきは、開催場所の確保から毎回の企画立案、準備、当日の運営に至るまで、すべて大学教員等の手を借りず、学生自らが行っているということです。例えば身近な材料でプラネタリウムを作成して星や星座について学んだり、実験やゲームを通して静電気について学んだりする楽しくも実用性の高いワークショップが大変評判で、友だちからの口コミで参加してくる子どもたちも多くなります。様々な団体や自治体からも「うちでも開催してほしい」という依頼が、受けきれないほど寄せられています。



楽しく学べるIrisのワークショップ

ボランティア活動を通して「自己有用感」を高める!

藤森センター長が学生のボランティア活動に期待することは、「自己有用感を高めること」だといいます。「人から頼りにされたり、人の役に立っていると実感できることがボランティア活動の醍醐味だと考えていますので、一人ひとりの学生が自己有用感を得られるように、サポートしています」。

ボランティア活動に「やらされ感」などのマイナスイメージを持つ学生もいますが、その活動の醍醐味を知っているからこそ、藤森センター長は「地域で学んでおいて」と学生の背中を押して送り出しています。ボランティア活動の一步を踏み出した学生は、地域の人たちと交流するなかで、教室では学ぶことができないたくさんのことを学んでいます。

敬愛大学でボランティア活動をしている2団体の代表にもお話を伺いました。



ボランティアサークル「Love and Action」
市田 ゆり奈さん (国際学部3年)

—Love and Actionでは、どのようなボランティア活動を行っていますか。

ゴミ拾いや、「敬愛大学」チームとしてポッチャの大会に出場したり、千葉市内で古着等を海外途上国に送る活動など様々なボランティアを行っています。

—どんなところにやりがいを感じていますか。

たくさんの古着等を途上国に送ると「これぐらいの数の古着がこれぐらいのお金になる」という新たな気づきがあって、面白いと感じます。あとは、お手伝いをして喜んでもらえることが嬉しかったです。

—コロナ禍ではどのように活動されていましたか。

自分がサークルに入ったときはコロナ禍の真っ只中で、活動もほとんどできませんでした。最近になってようやくできることが増え、今は今後の活動を模索している段階です。古着等を海外途上国に送る活動はコロナ前から先輩方が続けていた活動で、先輩が繋いでくれたのでまた一緒に活動できるようになりました。

—今後はどのようなことに力を入れていきたいですか。

活動を通して、途上国支援について考えさせられることがたくさんあります。今後は途上国への支援やその子どもたちの支援についてもっと何ができるか考えていきたいです。

—最後に一言お願いします。

私たちLove and Actionは、「やりたいときに、やりたい人が、やりたいことをやる」という考えがベースになっています。以前、とあるボランティア活動を行ったときに強制的な感じになってしまったことでメンバーの士気が下がってしまい、活動をするのが大変だと感じてそのようなやり方はやめました。新年度になり新入生が入ったので、興味を持ってもらえるようなPRをしていきたいと思っています。



たくさんの古着等を途上国へ送ります



東京パラリンピック競技ボランティア
小枝 亜耶乃さん (国際学部4年)

—ソフトパラフェンシングについて教えてください。

車いすフェンシング競技をベースに、障害の有無や年齢に限らず誰でも楽しめるスポーツを目指して作ったのが、ソフトパラフェンシングです。競技に使用する剣やマスクなども手作りすることができ、「手近なもので誰でもできる」というのが魅力です。

—ソフトパラフェンシングを作ったきっかけは何ですか。

2021年に行われた東京パラリンピックで、千葉大学、帝京平成大学、敬愛大学、植草学園大学の4大学の学生が車いすフェンシングの競技ボランティアに参加したことがきっかけです。東京オリパラでは「復興」というテーマがありましたが、「自分たちはパラフェンシングのボランティアで終わってしまい、何も残せていない」という思いから、ソフトパラフェンシングを作りました。

—現在はどのような活動をしていますか。

競技団体をつくりました。ベースとなるルールはありますが、そこから先は自分たちで広めてほしいと思っています。「普及

審判員」の制度も整え、今では200名以上程度がレクチャーを受けてソフトパラフェンシングを楽しんでいます。もともと「復興」をテーマに始まった活動ということもあり、今年3月に宮城県で普及活動を行いました。競技を知ってもらい、交流するツールのひとつとして活用してほしいと思っています。

—今後どのようなことに力を入れていきたいですか。

千葉市内で9月に行われる「パラスポーツフェスタちば」でブースを設置できるようになりました。まだまだ作りたての団体で「どんな反応をされるんだろう」と不安な部分もありますが、もともとパラスポーツに興味のある方たちはソフトパラフェンシングにも興味を持ってくれ、「そんなスポーツがあるんだね」といった声などを聞くとやりがいを感じ、広めていきたいと思っています。子どもたちへの普及活動も行っていきたいです。



ソフトパラフェンシング

令和4年度 赤い羽根共同募金募金 活動報告

みなさまの温かいご協力ありがとうございました

昨年度実施した「赤い羽根共同募金運動」並びに「歳末たすけあい運動」には、各行政区をはじめ県内の学校、各種団体、ボランティアグループ、企業等多くの皆さまにご協力いただき、誠にありがとうございました。

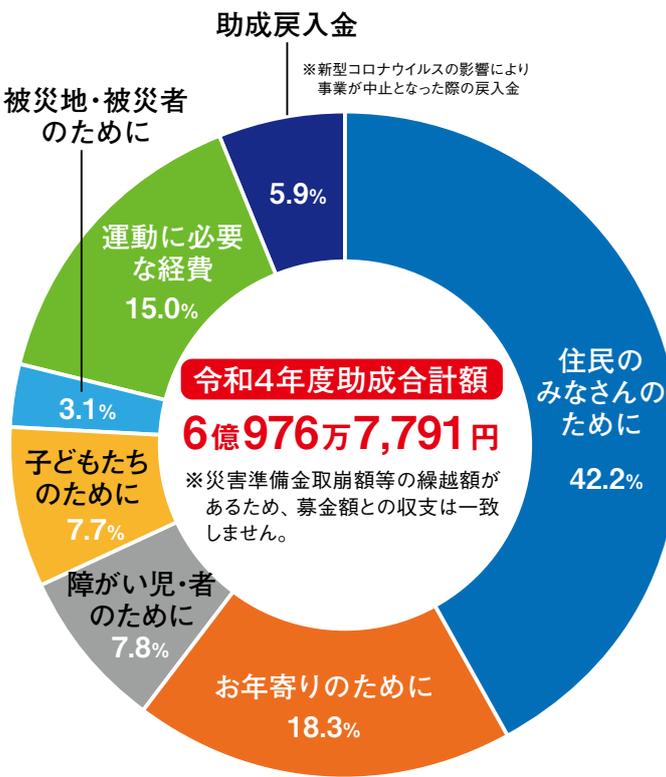
みなさまからお寄せいただいた募金は、千葉県共同募金会と各市区町村社会福祉協議会によって、約7割(市町村歳末たすけあい募金は全額)が寄付をいただいた地域福祉の向上のために、約3割が千葉県全域で支援を必要とする方のために使われます。(経費を除く)

令和4年度千葉県の募金額

5億6,927万6,262円

内	赤い羽根共同募金……………3億6,446万6,440円
訳	市町村歳末たすけあい募金…1億8,613万4,119円
	NHK歳末たすけあい募金……………1,867万5,703円

みなさまからお預かりした募金は、県内の様々な福祉のために役立てられています。



キャンペーンご報告

令和4年度 赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援キャンペーン 『地域に密着した多様な支援活動応援プロジェクト』

新型コロナウイルスの影響が長期化する中、景気の悪化や経済状況の変化により、生活に困窮する人や公的支援の及びにくい弱い立場にいる人が増えています。千葉県共同募金会では、こうした多様な福祉課題を解決するため、生活困窮者への食料配布事業・セルフネグレクトに陥っている人の相談支援・不登校児童や外国にルーツのある児童の通うフリースクールなど『地域に密着した多様な支援活動』を行う皆さまを支援いたしました。



共同募金は、時代とともに変わる「みんなのため」の募金です



共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として戦後復興を目的に始まりました。現在では、高齢者や障がい者に対する支援のほか、子ども食堂の運営や地域の交流のための事業など、時代の移り変わりに合わせたさまざまな地域の課題解決に取り組んでいます。赤い羽根募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026
千葉県千葉市中央区千葉港4-5
県社会福祉センター4F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338



<https://akaihane-chiba.jp/>

赤い羽根 ちば

千葉県共同募金会
マスコットキャラクター「びわびよ」

新会長に花島恭一氏が就任

本会では6月23日(金)に第3回理事会を開催し、花島恭一(千葉銀行顧問)が新会長に就任しました。新会長のもと、本年度も役員・職員一丸となって地域福祉の推進に向けて積極的に取り組んでまいります。

会長就任のごあいさつ



千葉県社会福祉協議会
会長
花島 恭一

このたび千葉県社会福祉協議会の会長を仰せつかることとなりました花島恭一でございます。

人口減少・少子高齢化、地域社会の脆弱化等、社会構造の変化の中で、地域住民等が支え合い、一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現が求められています。

社会福祉協議会として地域のつながりを再構築し、地域生活課題に対応していけるよう、会長として尽力してまいりたいと存じますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員紹介

- | | | | |
|------|----------------|-----|-----------|
| 副会長 | 茂原市社会福祉協議会 | 会長 | 鬼島 義昭(再任) |
| | 千葉県民生委員児童委員協議会 | 会長 | 高橋 君枝(新任) |
| | 千葉県高齢者福祉施設協会 | 副会長 | 井上 峰夫(新任) |
| 常務理事 | | | 渡辺 絹代(再任) |

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行幸用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉
〈引受幹事〉
損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667
受付時間:平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

参加費
無料

外国人介護人材の受入れに関する 制度説明会のお知らせ

千葉県外国人介護人材支援センターでは、外国人の雇用を検討している介護サービス事業者向けに制度説明会を開催します。

「EPA介護福祉士候補者」、「技能実習」、「特定技能」といった介護分野で外国人を雇用できる制度について、それぞれの制度に精通した講師が最新の情報や受入事例を交えて、丁寧に解説します。

また、介護現場で働く外国人とのコミュニケーションに不安を感じている方のために、やさしい日本語を使った話し方や職場における日本語教育に関する研修も開催します。

貴重な機会ですので、皆さま奮ってご参加ください!

日時 **令和5年8月25日(金)**
13:00~17:00

会場 **TKPガーデンシティ千葉**
3階 ファンタジア
千葉市中央区問屋町1-45

定員 **50名**

プログラム

- ①「EPA介護福祉士候補者について」
講師:公益社団法人国際厚生事業団
- ②「介護分野における特定技能制度について」
講師:公益社団法人国際厚生事業団
- ③「介護職種の技能実習制度について」
講師:公益財団法人国際人材協力機構
- ④「日本人介護職員向けのやさしい日本語研修」
講師:全研本社株式会社

外国人支援コーディネーターによる 無料相談サポート

千葉県外国人介護人材支援センターでは、外国人介護職員や介護分野への就労に関心がある外国人留学生、外国人を雇用している介護サービス事業者などからの相談に無料で応じています。

英語とベトナム語に対応できる外国人支援コーディネーター(相談員)が、電話、メール、面談、訪問などにより相談を受け付けています。

Zoomによるオンライン相談も行っていますので、希望される方はセンターまでお問い合わせください。

電話相談 **0120-054-762**(フリーダイヤル)

メール相談 **supportcenter@chibakenshakyo.com**

相談時間 祝祭日を除く月~土曜日 10時~18時

外国人支援コーディネーター(相談員)の担当曜日

月曜日、水曜日、金曜日:ベトナム語に対応できる相談員

火曜日、木曜日、土曜日:英語に対応できる相談員



お問い合わせ先 **千葉県外国人介護人材支援センター**

ホームページ: <https://cfcc.jp/> 電話: 043-306-2782 メール: supportcenter@chibakenshakyo.com